



片柳中学校だより

# 片柳

第2号 令和6年4月30日発行  
さいたま市立片柳中学校  
さいたま市見沼区大字御蔵551  
TEL048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

## 部活動地域移行について

校長 加藤 明良

4月8日の始業式、入学式から早くも3週間が過ぎました。先週は、学校説明会、学年保護者会、PTA及びかたやなぎクラブ総会、部活動保護者会と一日で様々な会にご参加いただいたことに感謝いたします。何かご質問やご不明な点がありましたら、後日でも結構ですので、学校までご連絡ください。

今回は、部活動の地域移行について説明します。部活動は、昭和20年代から文科省が定める学習指導要領に特別活動の領域として位置づけられ全国の中学校で始まりました。その後、教育課程（正規の授業）として位置づけられ（必修クラブ化）、部活動を必修クラブの代替として扱えるようにするなど、昭和50年代から平成10年頃までは学校の教育課程として位置づけられてきました。この時期は全国的に中学生の荒れが校内暴力としてクローズアップされ、生徒の活力を部活動に向けさせる意味でも、部活動への参加が求められました。保護者の中にはこの頃中学生として部活動に熱心に取り組まれた方も多いことと思います。その後、必修クラブは廃止され、部活動も教育課程外の活動として位置づけられ、中教審答申等では、教員の働き方改革の一環としても部活動を学校単位から地域単位や学校外の組織が担うことを打ち出しました。令和4年にはスポーツ庁が「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を出し、新たな地域クラブ活動や大会の在り方などを示しています。特に令和7年度までを改革推進期間として土日の地域移行を早期に進めるように促しています。

一方、片柳中学校は過去十数年の間に生徒数減と教員減により多くの部活動を廃止してきました。結果的に生徒のやりたい部活動がない、先生に競技の専門家がないなど課題を抱えています。あと数年後にはさらなる生徒減が予想され、今こそ部活動を地域移行することで、生徒がやりたい活動を、より専門的な指導が受けられる環境が求められています。そして昨年地域の方々を中心に地域団体「かたやなぎクラブ」が立ち上がり、今年度から土日の活動は「かたやなぎクラブ」の下での活動として実施していくこととなりました。

このように国が示す土日の地域移行は、さいたま市初の形で本校では実施されていますが、平日も含めての地域移行には様々な課題があります。昨年、今年と指導費は市教委から全額補助されていますが、来年度以降は未定です。また、指導者もまだ足りず、生徒たちの活動を見守る形でも多くの大人の目が必要だと考えます。加えて、これまでの部活動の概念をリセットし、学校施設を活用する地域クラブという新しい活動であることを、教員や指導者、生徒、保護者が共通の概念として持つ必要があります。具体的には、生徒の主体性を尊重し、生徒や保護者が望む活動を保障すること、保護者も金銭面も含めて応分の負担が求められること、など新しい地域クラブの理念を地域の人たちも含めて共に創っていくことが大切だと考えています。ぜひ、地域の方の中で「かたやなぎクラブ」に何らかの形でご協力いただける方がおりましたら学校までご連絡ください。